

大学院留学準備のいろは

海外の大学院進学には院試は無く、書類審査および先生との繋がりで。

遅くとも入学希望時期の1年半以上前から準備始めましょう！

- 大学の成績を良くする。一流校を目指すならGPA最低 3.50 以上は維持したい。
- 大学案内、学術誌の記事、論文などを検索し、指導教員になっていただきたい研究者を絞り込む。その際、京大理学部先生方に相談するのが一番おすすめ。
- 留学先で指導教員になってもらいたい先生に応募の1年以上前からメール等で連絡をとり、入学の内諾を得る。話がまとまるまでは複数の先生に連絡してよい。
- IELTS, TOEFL, GRE など、必要な試験を受ける。申し込みは各ウェブサイトから。在外経験のない普通の日本人は、数ヶ月～1年程度の準備が必要。
- 推薦状（通常2～3通）を少なくとも1ヶ月以上前に依頼する。京大での指導教員が原則。学会で著名な先生や留学先の大学と繋がりのある先生のものであれば理想的。
- Essay（小論文）または Statement of Purpose（研究計画）を、受験する大学の指示に従って用意する。内容や書き方は国際教育室でアドバイスを受ける。

注意事項

- 理学系であれば、海外の一流研究大学には奨学金の機会が多数ある。工学、医学、経営学、法学などの実学系・専門職系には、奨学金の機会が少ない。
- 医学部（医師 MD になるコース）は外国人が奨学金付きで入れる可能性はほぼ無い。研究するための留学（Ph.D.コース等）であれば理学・工学等と同じ扱い。
- 大学のランクが上がるほど、入学は狭き門だが、奨学金の機会は拡大する。
- 米国の場合、私立大学のほうが外国人への奨学金提供の可能性が高く条件も良い。
- 大学院の奨学金は、授業料全額免除＋生活費支給が基本である。奨学金は日本の大卒初任給より高い場合が多いので、経済的理由で研究を諦める必要は無い。
- 日本の民間財団が提供する奨学金も好条件のものが多く、随時募集がかかるので、教務掛前や各専攻事務室前の掲示に注意し、自分でもインターネット等を検索して探す。
- 日本の大学と違い、最終の可否は院試の点数でも偏差値的ランキングでもない。
- いかに関心がその大学に合っていて、その研究室にとって必要な学生であるかをアピールできるか否かにかかっている、いわばお見合いのようなものであるため、大学ランキングに左右されず、志望校／研究室の内容で決めないと失敗する。
- さらに質問や相談がある場合は、国際教育室・鈴木までお問い合わせください。
- 個別相談は、国際交流室・鈴木あるの講師までメールで予約 arno@sci.kyoto-u.ac.jp